特注のスパイクを前に

「恩返ししたい」

陸上男子200mの実力者
飯塚選手が来季ミズノ入り

陸上男子200mの日本チャンピオンで、日本歴代3位記録（20秒21）を持つ中央大学陸上競技部・飯塚翔太選手（法学部4年）のミズノ入社が内定し、来季からミズノ・トラック・クラブ（MTC）の一員として競技に専念する。

東京・渋谷の岸記念体育館会議室で7月23日に行われた記者会見に同期入社となる「やり投げ」のディーン元気選手（早大）とともに臨んだ。

テレビカメラ4台を含むマスコミ各社から約100人が集結。「C」マーク入りの赤いネクタイをきりりと締めた飯塚選手はやや緊張した表情だった。

「お声をかけていただき、来シーズンからミズノさんの一員としてやらせていただくことになりました。ミズノさんに大事なスパイクや海外遠征などで絶大なバックアップをしていただけるのはすごくありがたい。僕の力はまだまだですが、いずれ恩返しをしたいです」

ジャケットの左襟に「東京五輪招致」の記念バッジを付けた。招致活動のメンバーとなり、海外でのニッポンを意識するようになった。

偉大な陸上の先輩が海外で高く評価されている。ミズノ所属の2004年アテネ五輪ハンマー投げ金メダルの室伏広治選手（38）がその人で、日ごろのトレーニングから海外遠征までミズノと協力し、自身が競技に専念できる環境づくりに励む。

飯塚選手はそれが「メダルへの道」と確信し、隣席のディーン元気選手も同意見といい、入社の決め手だったと明かした。

同期入社となるディーン元気選手と

会見では世界陸上（8月・モスクワ）で履く新しいスパイクが披露された。

数タイプのスパイクを履いて力走、その都度データを取り、飯塚選手にぴたりと合った“世界で唯一の飯塚モデル”だ。

ミズノによると、足裏外側のピンの長さを3㎜と短くすることで、他部分装着のピン7㎜と合わせ、接地時の安定性を高めてスムーズな体重移動を可能にしたという。

データ分析では飯塚選手が足裏の外側から着地し、次に母指球と親指で強く蹴り出していると分かった。

鬼に金棒となったスプリンターは「陸上界を引っ張っていく立場だと思っています。なんとか食らいついて、世界にアピールしたい」と意気込んだ。

MTC

MTCは1990年に設立された。1988年ソウル五輪で、陸上競技は3大会続けてメダルを逃した。直前の2大会はマラソン4位が最高。ソウル大会で中山竹通選手が、84年ロサンゼルス五輪では宗猛選手がそれぞれ4位と健闘した。

MTC設立後は五輪や世界選手権などで存在感を示した。室伏選手は五輪で2004年アテネ金、2012年ロンドン銅、世界選手権は2011年韓国テグ金、アジア大会では1998年バンコク、2002年韓国プサンと連覇した。日本選手権は18連覇中。

飯塚選手と同種目200mの先駆者で20秒03の日本記録保持者、末続慎吾選手（33）は2008年北京大会から五輪3大会出場、アジア大会は2002年プサン、2006年ドーハとV2。所属選手は13人。